

SDGs（持続可能な開発目標）できることから始めてみよう！

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、世界をよりよくするための目標（持続可能な開発目標）で、2030年までに、先進国・途上国すべての国や地域で達成を目指して取り組む世界共通の目標です。

世界では、貧困、飢餓、紛争、環境破壊、資源の枯渇など、多くの課題に直面しており、このままでは、今の暮らしさえ持続できないと言われています。そうした危機感から、「誰一人取り残さない」というスローガンのもと、資源や環境を守りながら経済成長を続け、豊かに暮らせる社会を実現するため、貧困、健康、教育、環境など世界共通で取り組む17の目標（ゴール）が掲げられました。

SDGsは、企業や組織、行政だけが取り組んでいても達成できません。「自分のこと」「自分の地域のこと」としてとらえ、一人ひとりが17の目標を意識して行動することで、SDGsの目標に近づいていきます。

次号から、17の目標と、私たちが暮らしの中で始められる身近な取り組みを、シリーズで紹介していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



目標1「貧困をなくそう」～世界中のあらゆる貧困を終わらせる～



1日に1.9ドル（約200円）未満で暮らしている貧困状態の人たちが、世界で約7億3,000万人以上もいます。この額では、食べ物や水などを手に入れることができないだけでなく、病院に行くことや十分な教育を受けることもできません。

また、日本も例外ではなく、7人に1人、約280万人の子どもが経済的に苦しい貧困状態にあると言われています。給食でしか食事がとれない、必要な教育が受けられない、さまざまな経験や体験の機会に恵まれないなど、子どもの将来に大きな影響を及ぼします。

支援団体やボランティア活動に協力することで、子どもを取り巻く環境が改善されるとともに、地域や社会からの差別・孤立の防止につながります。

私たちにできること

- ☐ 食材を「こども食堂」や「フードバンク」に寄付する
- ☐ 支援に関する活動や募金に寄付する
- ☐ 子どもの居場所づくりや生活支援のボランティアに参加する など

目標2「飢餓をゼロに」～飢餓を終わらせ、

十分な食料と栄養バランスを確保するとともに、持続可能な農業を推進する～



世界では、食べるものが食べられず飢えと栄養不良に苦しんでいる人が約8億人もいます。

一方、日本では、食料自給率が低いにもかかわらず、食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」が、年間約612万トンもあり、そのうち約半分は家庭から出る食べ残しなどです。この612万トンは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界食糧援助量の約1.6倍に相当します。これを、日本の国民一人あたりで計算すると、毎日「茶碗1杯分の食べ物」を捨てていることになります。

食品ロスを減らせば、食材はもちろん、生産に費やされた人々の労力や地球資源の無駄がなくなります。また、廃棄にかかるコストも減らせるとともに、地球の温暖化の原因となる温室効果ガスの排出の削減にもつながります。

私たちにできること

- ☐ 残さず食べる
- ☐ 食材は必要な分だけ買う
- ☐ 食べきれない分だけ注文する など

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS